

2006.6

三多摩山スキークラブ 会報

6月号 159



2006年6月10日 発行

三多摩山スキークラブ

会長 川上 邦夫

〒180-0013 武蔵野市西久保 3-25-7-303

Tel& Fax 042-253-7289

<http://www.asahi-net.or.jp/~xi7m-ootk/backnumber.htm>

平標・神楽峰初級山スキー

報告は 8 頁に掲載

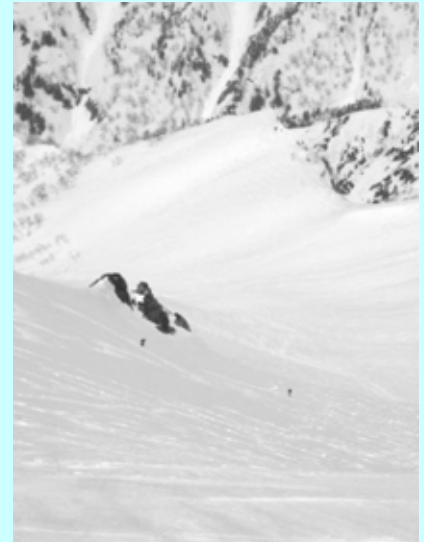
写真：杉山一宏



北アルプス 飛騨沢&槍沢 大滑降

報告は 10 頁に掲載

写真：堀内享子



尾瀬至仏山

報告は 14 頁に掲載

写真：杉山一宏



目次

平標・神楽峰初級山スキー	2
北アルプス 飛騨沢&槍沢 大滑降	3
尾瀬至仏山 山スキー	4
目次	5
今月の表紙	5
インフォメーション	6
総会の案内、例会、運営委員会、リーダー会、スキー協行事等	
案内	
夏山のお誘い	7
行事報告	
平標・神楽峰初級山スキー報告	8
北アルプス 飛騨沢&槍沢 大滑降	10
北アルプス・朝日岳周辺山スキー報告	11
北アルプス・横尾谷右股 大滑降	13
個人山行等	
ゴールデンウィーク 尾瀬至仏山 山スキー	14
念願がかなった暑寒別岳登頂	16
東京スキー協 鳥海山山スキー教室	18
鳥海 - 八甲田 - 鳥海春山スキー	19
近況報告	21
例会・運営委員会等	22
スキー協関連報告	22
編集後記	23
行事案内 / 申込書	
荒川三山、赤石岳山行案内	

今月の表紙

稜線下の標高 1700~1800m付近から切れ落ちた、数百mに及ぶ雪崩の巨大なデブリに出くわす。上を見ると、稜線近くで風下側に吹きだまった大量の雪が、その重さに耐えかねて、斜面の途中から切れて根こそぎ流れ落ちたことが判る。上の

残った雪は不安定な状態でへばりついており、いつ崩れてもおかしくない。

雪崩を警戒し、右側の少し山側を登ることにした。デブリ帯と別れ、1300m付近から稜線目指して、樹林帯の急登に取り付く...

詳細は、平標・神楽峰初級山スキー報告を

インフォメーション

総会に出席しましょう。

下記により総会を開催します。

今シーズンを振り返ってみて。そして、来シーズンは、どんな行事を。楽しい企画を考えましょう。そして、みんなで荷を分かち合いクラブ運営が円滑にできるよう新しい体制を確立し、三多摩山スキークラブを発展させていきましょう。

日時 7月9日(日) 午後1時00分～

場所 国分寺労政会館 (042-323-8511)

- 議題： 1) 今期の行事活動を振り返って
 2) 来シーズンにむけて
 3) 財政について
 決算報告・予算
 4) 役員改選
 5) その他

例会			
-----------	--	--	--

6月例会のご案内

今月のテーマは、**リーダー論**

日時 6月14日(水) 午後7時30分～

場所 国分寺労政会館 (042-323-8511)

8月			未定		
9月	??日		未定		
運営委員会					
6月	28日	(水)	午後19時30分～	国分寺労政会館(042-323-8511)	
7月	1日	(土)	午後17時30分～	国分寺労政会館(042-323-8511)	
リーダー会議					

三多摩行事等予定				担当

その他 スキー協関係			問合せ先
6月	18日		東京スキー協総会
6月	10日～ 11日		全国スキー協総会

行事案内

今シーズンのクラブ行事は終わりました。

乗鞍岳、立山、月山、鳥海...、等々、雪を求めて滑ることも可能なようです。皆さんの報告をお待ちしています。

スキーは、一休み。来シーズンへ向けて鍛錬？

山行きの計画が寄せられました。興味ある方は近藤さんへ問い合わせてください。南アルプス南部、荒川三山への計画です。

内容は

荒川三山、赤石岳へ 山行のお誘い

7月の海の記念日の3連休です。

期日 7月14日(金)-17日(月)(夜行2泊3日)

目的 花と3000Mの縦走を楽しむ

山域 アルプス 赤石岳、荒川三山

行動予定:

7/14(金) 9時頃 某所で集合-東名-畑薙ダム(仮眠)

7/15(土) 薙ダム~(バス)~榎島~赤石東尾根~赤石小屋

7/16(日) 石小屋~赤石岳~荒川三山(前、中、東)~千枚岳-千枚小屋

7/17(月) 枚小屋~榎島~バス-畑薙ダム~帰京

宿泊: 赤石小屋、千枚小屋共 一泊2食付

@ ¥7,500 x 2

装備: 一般: 山装備一式

定員: 4名 それ以上は車提供者次第

参加締切: 6月末日

問い合わせ、申し込み: 近藤まで

tel:03-3316-3628

mail:noseta@jupitar.ocn.ne.jp

行事報告

平標・神楽峰初級山スキー報告

(二階堂 記)

時 期 4月21日(金)夜～23日(日)

参加者 L二階堂、S L伊達、今井、小川、斉藤(シ)、杉山、樋口(仁)、樋口(浩)、横山 計 9人

宿 泊 三俣旅館「新兵衛」

山行概要

4 / 2 1 (金) 21:00 JR西国分寺駅南口集合、二階堂車と杉山車に分乗して出発。

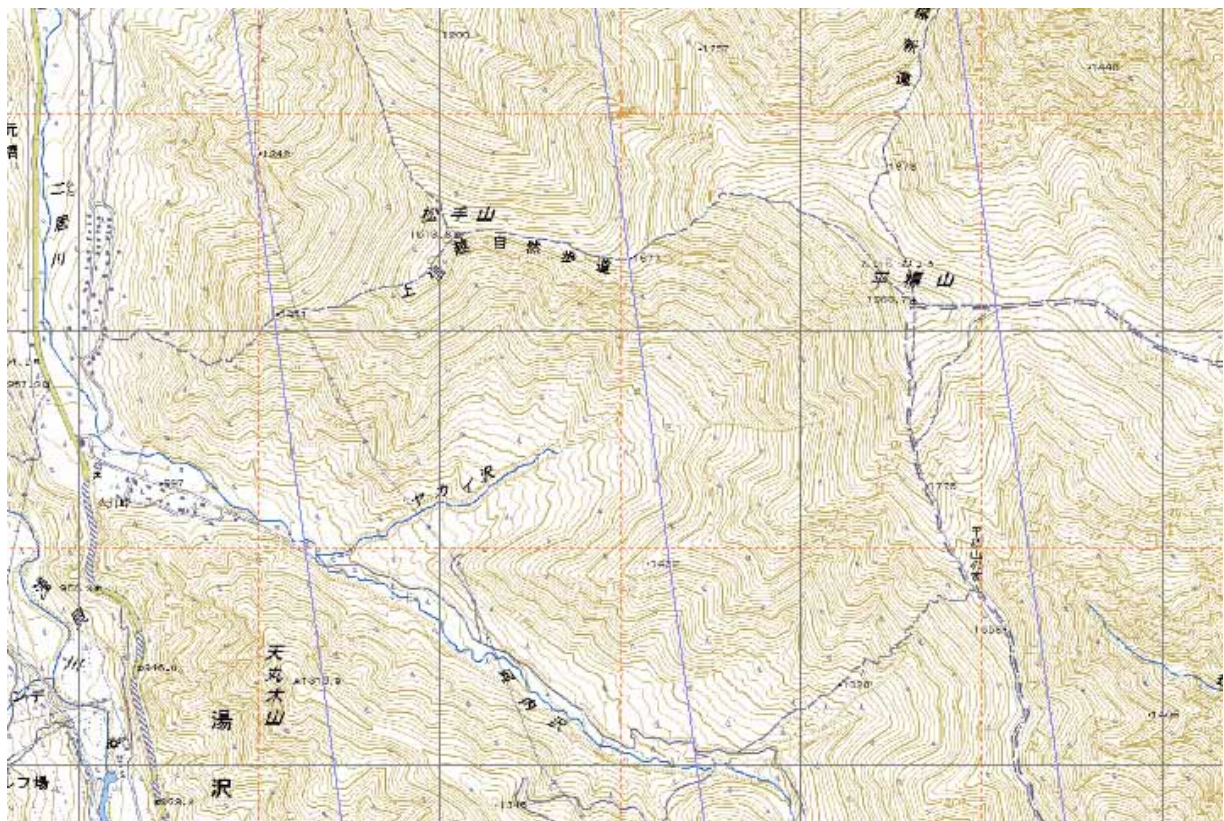
この冬の豪雪に加え、春になっても相当の降雪があり、各地で雪崩事故が続発、慎重な行動がめられる。関越トンネルを抜けるとみぞれとなり、やがて雪に変わる。21:20 宿着。

夜半から朝にかけてかなり激しい雨降る。

4 / 2 2 (土) 朝のうち小雨が残ったが、朝食をとり7:40に宿を出発する頃には雨はあがり、元橋の駐車場に着いた時にはすっかり晴れる。スキーをザックに付け、8:30 出発。最後の別荘を過ぎると林道は雪道となる。

9:00 河内沢の橋を渡った先で夏道沿いのトレースと別れ、スキーをはいて広く緩い斜面を登り始める。天候は快晴となり、風も穏やかで暖かだ。

10:00 標高1200m地点で、稜線下の標高1700～1800m付近から切れ落ちた、数百mに及ぶ雪崩の巨大なデブリに出くわす。上を見ると、稜線近くで風下側に吹きだまった大量の雪が、その重さに耐えかねて、斜面の途中から切れて根こそぎ流れ落ちたことが判る。上の残った雪は不安定な状態でへばりついており、いつ崩れてもおかしくない。



ヤカイ沢を初め沢という沢はすべて雪崩てるばかりでなく、至る所に亀裂が入っており、とても滑れる状態ではない。我々は新たな雪崩を警戒し、右側の少し山側を登ることにした。デブリ帯と別れ、1300m付近から稜線目指して、樹林帯の急登に取り付く。初級山スキーだからゆっくり登るのはいいとしても、3時間くらいと考えていたこの登りで5時間以上もかかってしま



まい、稜線に着いたのは14:40であった。山スキーを安全に楽しむためには、もっと体力をつける努力が課題であると思われる人もいた。

稜線に出ても、相変わらず好天で風も穏やか、時間が少し遅いのが気になるが、このまま下るのは惜しい。みんなに意見を求めるも返事が無い。リーダー判断で頂上を目指す。稜線の広大な斜面をひと登りで14:40頂上到着。天候良好、眺望抜群。

15:20滑降開始。雪が少ししまってきて快適だ。稜線からは、登りに苦労した急斜面は避け左へ回り込み、樹間が広く緩い斜面を選びながら気持ちよく滑り、16:50無事元橋着。

今井さん、斉藤さんは初日のみ参加、湯沢から新幹線にて帰京。逆に樋口(仁)さんは2日目のみ参加のため夜来る。

4 / 2 3 (日) 曇り。8:10 宿の送迎車でかぐら・みつまたスキー場の駐車場へ。この送迎は無料で、駐車料金もかからないので利用したい。

9:30 第5リフト終点の登山口着。第5リフトが運行することは少ないとのことだが、これで一番きつい急坂をカットできラッキー。9:40 シールを着けて登行開始。天候晴れ、眺望良し、10cmほどの新雪あり。真正面の小ピークを外し、左側をトラバース気味にまいて稜線に出る。11:30 頂上直下の棚状の場所でシールを外し滑降開始。雲と風邪が少し出る。以前にこのコースを滑っている杉山さんのガイドで、頂上から真東に向けて広い斜面を滑る。途中で小さなピークを左側からまく箇所があるが、全体としては広く快適な斜面で、田代スキー場目指して気持ちよく滑る。深雪滑降に絶好のコースだと思われる。11:30 無事ロープ乗り場着。



宿到着後は荷物を宿に預け、宿で買った割引券を利用して近くの街道の湯で一浴。帰路、湯沢インター近くの伊達さんお勧めの蕎麦屋で、魚沼地方で古くから伝わる郷土の味「へぎそば」で舌鼓を打ち、無事帰京。

行事報告

北アルプス 飛騨沢 & 槍沢 大滑降

H18年5月13日 記近藤

期日：5月2日(夜)～5月5日(夜行2泊3日)

天候：3日間共晴れ

参加者：R高畠、S L近藤、M G堀内、二階堂、笹木

行程：5月2日 PM9:00 J R八王子 - 新穂高温泉無料駐車場 12:30着(仮眠)

5月3日新穂高温泉(1040M)7:15-8:35 穂高平小屋(1320M)8:55 - 12:40 滝谷出合(1700M)
13:00-14:00 槍平避難小屋(2000M)

5月4日 槍平避難小屋 6:45-11:00 飛騨沢乗越(3010M)11:20-11:40 槍ヶ岳山荘(3060M)13:20
(滑降)-13:40 殺生小屋手前(2800M)13:45 - 登り返し-14:45 槍ヶ岳山荘

5月5日飛騨沢乗越 10:15(滑降)-10:45 槍平小屋 11:30-12:10 1550M 地点(シートラゲン)
12:15-12:55 白出沢 13:10-14:25 新穂高温泉

感想：笹木氏 都合で自分の車で来ることになる 予定とおり高畠車で新穂高へ昨年の夏に来たときは既に一杯だったがG・Wはまだ余裕があり一安心やはりこの時期は一般ハイカーは来ないか

5月3日 いい天気 久しぶりに重さが肩に食い込む 林道に入って30分ぐらいで雪が出てきてシールをつける。さすが各沢(白出沢、滝谷)に大きなデブリがでており、その規模はすごい。暑さにまいりながらなんとか予定通りの時間に槍平小屋に着く

槍平避難小屋は行く前の情報では雪が多くまだ埋まっているとの事でテントを用意したが何とかは入れるとのことで置いて来たのが正解。何とか二階から入る。暗くて寒々しい小屋。テント組が多い。

5月4日 飛騨沢乗越しまで、標高差1000Mの登りだ。今日もいい天気 2500M位まで来ると背後には笠ガ岳をはじめ双六、三俣が真っ白に見える。稜線近く迄くると上から滑ってくる人が落ちてくる。まだアイスバーン状態でエッジがきかないようだ。我々の明日が心配だ。やっとのおもいで稜線へ、山荘はスキーよりも登山者が圧倒的に多い。それも中高年者だ。しばらく休憩してから山荘前から槍沢を殺生小屋を目指して滑降。雪もほどよくザラメでギャラリーの前で気持ちいい滑り。ほんの200M弱5分もかからない。登り返し小一時間。風もなく、あったかく、外でビールでのんびり 山座同定しながら景色を楽しむ。

5月5日 アイスバーンが気になり 時間を調整する。天気がいいのにもったいない気がするが昨日の状態を見ているのでしょうがない。時間を持って余し気味。9時頃様子をみにアイゼンをつけてコルまで行って見る。昨日程硬くなってなく10時出発と決める。さあ一出発。まずは慎重に滑るが 大丈夫と判断して広い飛騨沢を各自思い思いのシュプールを描く。気持ちいい。下から見上げると我々の8の字が逆光に反射して綺麗に見える。写真を撮りながらあつと言うまに500Mは滑る。少し雨溝も出てき、重くなってきた。槍平小屋からは沢沿いに河床をトレールに乗って軽快に滑る。1550M付近から板を付けて白出沢小屋まで歩く。後は林道を一気に滑る。スキーは早~い。4時間で終了。満足でした。心はもう来年に

総括：天気に恵まれ、コースの選択、足並み等、順調にいった。雪質は特に3000Mぐらいになると微妙に変わり(その日の温度、風等で)難しい。結果的にはもう少し早く滑ってもよかったかも

行事報告

北アルプス・朝日岳周辺山スキー報告

06年5・14 記録者 勝亦 勇一

天気に恵まれて、最高の山スキーを楽しむ！

5月2日(火)、八王子に午後10時に集合。長野道の豊科インターを午前1時半ごろ出た。安曇野の「道の駅」に着いて、車の中で仮眠。

伊達、勝亦の二人は、3日(水)榎池高原の駐車場に車を置き、ゴンドラに乗る。口 パウエイ上部、1830mを10時に出発。

天気も、体調も快調で2200mの天狗原に、11時35分に着く。

ここで、ザックを置いて、白馬乗鞍岳まで登ることにする。ヘリコプターで、天狗原までやってきた親子づれを尻目に、我々二人は、やく50分で白馬乗鞍岳の溶岩台地に出た。

目の前に、雪倉岳・朝日岳の稜線が見える。振り返ると、妙高山、火打岳、雨飾山などの山々が見える。

ゆっくりと展望を楽しんで、13時30分に天狗原に向かって滑降を開始。なんと7分で滑り終えてしまった。スキーは、全く速い。



天狗原に「あと、一息！」

天狗原でザックを背負って、「さあ！蓮華温泉めざして、ふりこ沢へ」

13時50分、岩場の天狗原を後にしてふりこ沢に、向かう。ふりこ沢の雪も快適であった。ざらめ雪で、スキーが快適に滑る。

少し登って、沢沿いを滑ると林道に出た。乗鞍沢にかかる橋を渡って、蓮華温泉に15時近く到着した。

2 日目、今日も天気に恵まれた！

5時に、起床。5時40分、蓮華温泉を出る。早朝で、雪がアイスバーン状態。兵馬平で、瀬戸川への下り地点をやっと見つけて、横滑りで下まで降りて、瀬戸川のスノーブリッジを無事通過する。

ここで、朝食とする。おにぎりが、少し硬い。テルモスの白湯で、なんとか食べる。7時05分、スキーにシールを着けて出発。

しかし、勝亦の調子が悪い。ピッチが上がらない。少し、熱がありそうだ。昨夜、温泉で「湯ざめ」をしたようだ。扁桃腺が痛い。

ひょうたん池の近くの1300m前後で、伊達さんに先に行くように伝える。勝亦は、どんどん遅れる。

1500m近くで、勝亦は大休止。ガスバーナーを出し、お湯をつくり紅茶を飲む。

たった一人で、大雪原の真ん中。左からは、雪倉岳からの沢が合流する。6年前、雪倉岳から滑ってきたところだ。

ゆくりと休んだお陰で、元気が回復したようだ。なんとか1800mまで行こうと歩き出した。しかし、1760m地点で12時20分。目の前の急斜面を、後にして下り始める。

「1760mで、折り返す！」



勝亦は、瀬戸川に13時に滑り着く。瀬戸川のスノーブリッジを渡り、兵馬平に14時05分。蓮華温泉まで、標高差あと約200mだ。ところが、体が動かない。水もない。そして、西日が暑い。

なんと、兵馬平からの登り返しで、2時間30分もかかって、16時35分にフラフラになって蓮華温泉小屋にたどり着いた。そして、すぐにふとんに潜り込んで寝た。

伊達さんは、無事、朝日岳の登頂を果たして17時近くに帰ってきた。



アースキーを楽しむ!

勝亦の体調不良で、今日は下山とする。コースは、蓮華温泉から角小

屋峠を越えて木地屋まで滑り、木地屋からタクシーで樽池高原まで周回する。

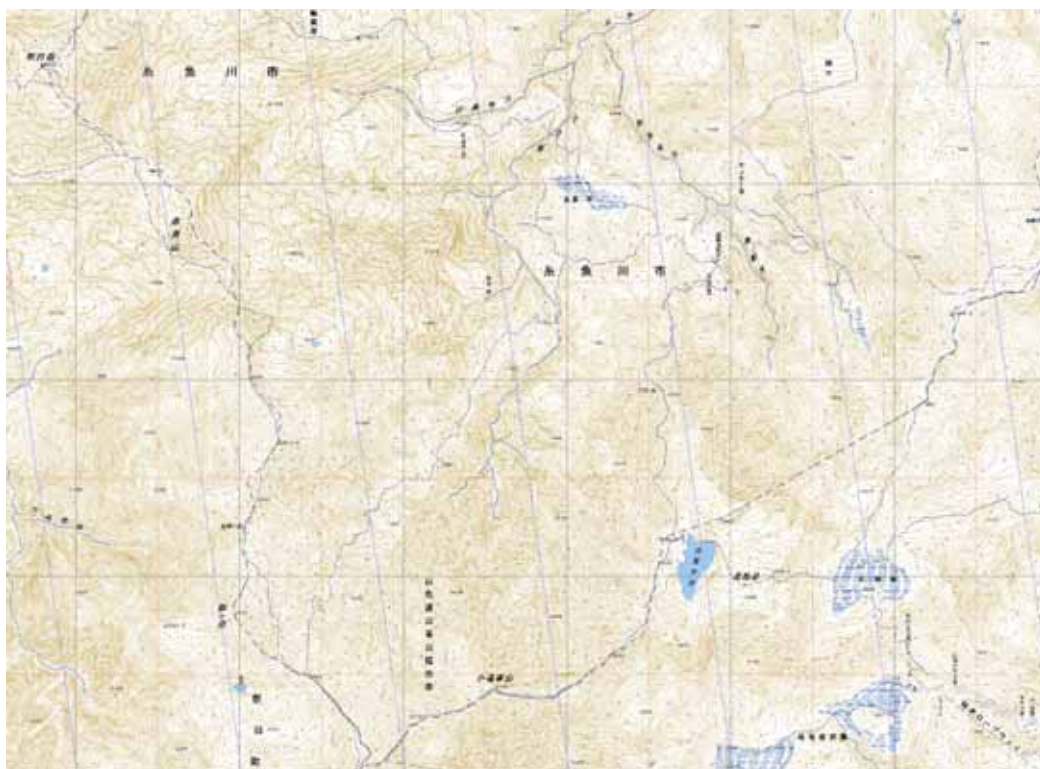
蓮華温泉から、ふりこ沢に別れを告げて林道からヤッホー平に向けて滑りる。樽平で休憩して、角小屋峠に向けて最後の登り約100mを頑張る。

10時10分、角小屋峠に到着。ここで、雪倉岳、朝日岳などに別れを告げる。ここから、木地屋まで約10kmの滑降だ。角小屋峠からは、急斜面の滑り出した。慎重に滑り降りて、ウド川に沿って樹林帯を快適に滑る。

11時50分、木地屋の山里の家並みが見た。山桜が、満開だ。タクシーを呼び、奈良からきたという若い2人と同乗して、4人で平岩駅前を通過、樽池高原まで回ってもらう。

タクシーの運転手は、親切で「千国街道」について説明してくれた。タクシー代は4750円だった。

白馬町で、伊達さんの案内でおいしい「そば屋」に立ち寄り、楽しい思い出が1つ増えた。



行事報告

横尾谷右股 大滑降

H18年5月28日近藤

期日：5月19日(金)(夜)～5月28日(日)(夜行1泊2日)

天候：初日曇り後大雨2日目快晴

参加者：R 近藤二見

行程：5月26日PM9:00JR 新宿 中央道 松本 沢渡駐車場(12:30着仮眠)

5月27日車で坂巻温泉へ駐車 上高地 明神 徳沢 横尾山荘

5月28日横尾山荘 5:00-6:15 本谷橋 6:30-10:30 横尾尾根コル 11:00-11:30 本谷橋 11:45-12:40 横尾山荘 13:00-上高地 帰京

感想

土曜日は雨予報だが日曜日が晴れる予報なので予定通り出発する。

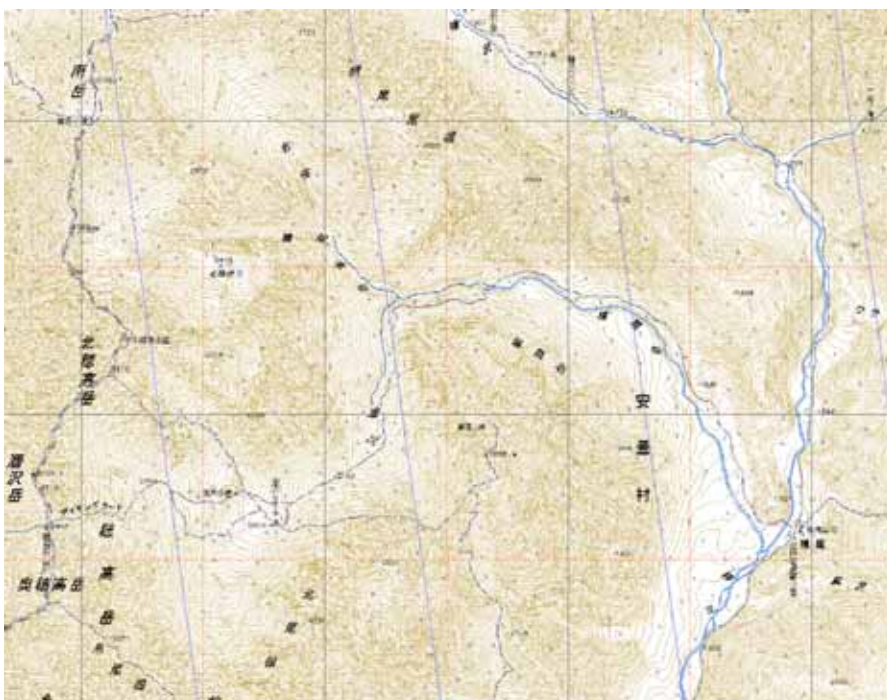
上高地からの林道歩き 3時間板を付けての雨中歩きを覚悟してたが予報に反して曇り時たまポツリポツリという天気で助かった。

12:30 頃に横尾山荘着と同時に雷雨がザーと降ってきてラッキー午後からはのんびり談話室でおしゃべり、雑誌等を見て時間をつぶす。ここはお風呂にもはいれます。

翌日は雲ひとつない好天気。本谷橋からシールをつける。前日の雨のせいか水流が激しく流れている。涸沢のみちをわけて横尾谷に入る 20～30分で左股分岐左股も最初は狭いが上は気持ちいいカールらしいこっちも滑りたい。

前方に飛騨沢のようにひろく開けた谷がみえる。後ろを振り返れば前穂、屏風の頭が目の高さになってくる。イヤー素晴らしい景色誰もいなくて静か。コルの手前200Mが急な壁みたいになって、ここから歩行アイゼンで一步一步しっかり登る。下をみるとチョット怖い。上から10名ほどの団体がみえる。

話を聞けば次田経雄のPARTYとのこと。槍沢から来たそう。予定より早くついて大休止。また槍



が豪快に見える。頭の中にはつぎのコースが浮かぶ(槍沢を滑って天狗原をのぼりかえしてこのコース)

サーおまぢかねの滑降だ。雪質もザラメ、ターンもしっかりできる。最高!!うれしくなる。下になるとさすがに木屑、石ころが多くなり、慎重に間を滑る。あっという間に本谷橋へ到着、30分だ。改めてスキーは早い。あとは上高地へ行くのみ満足感が3時間の林道も苦にはならなかった。

以上

ゴールデンウィーク 尾瀬至仏山 山スキー報告

報告：杉山

期間 4月28日(金)夜~30日(日)(前夜発1.5泊2日)

参加者 リーダー：杉山、メンバー：荒木、中川、石川

宿泊地 (前泊)吹割温泉 竜宮の湯(入浴・仮眠 3,000円)

(宿泊)山の鼻・至仏山荘(一泊二食 8,600円)

費用(一人あたり): 交通費 5,200円 宿泊費 11,600円 入浴料 700円

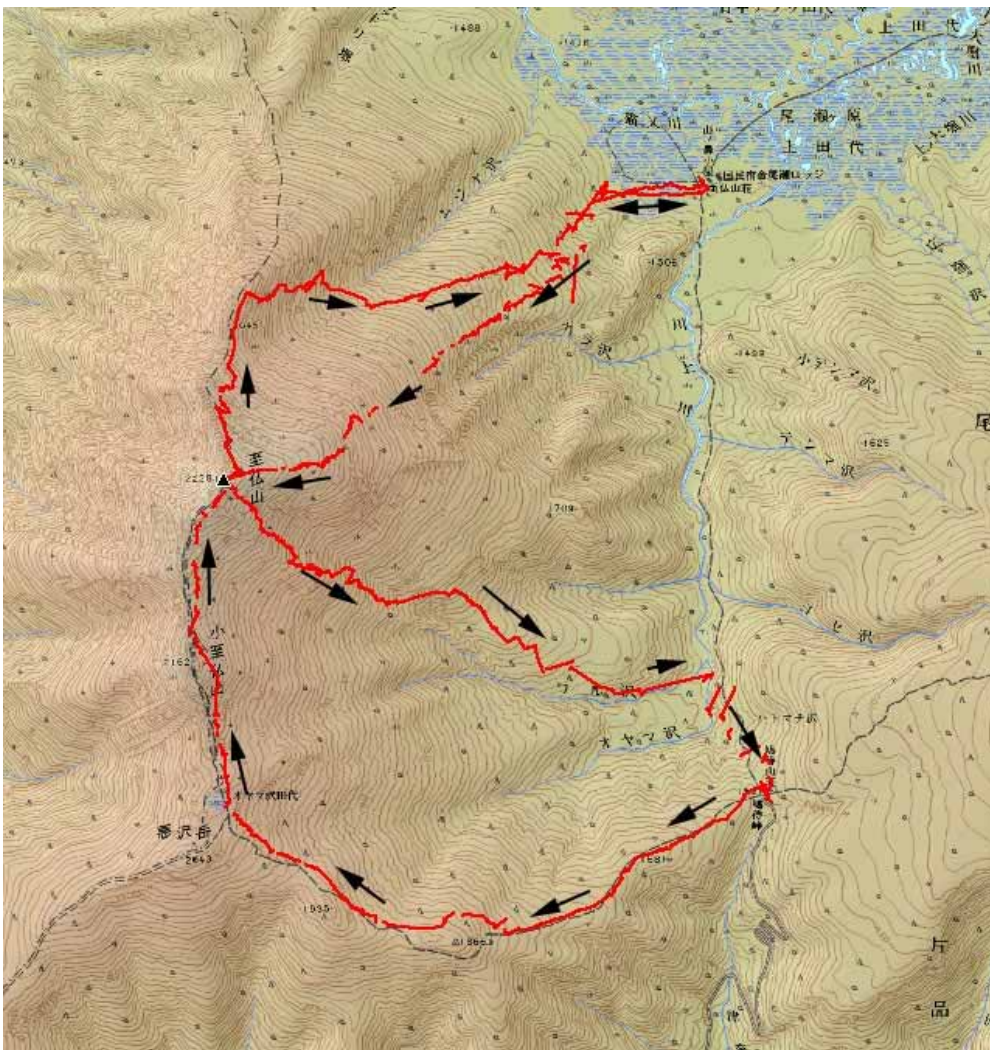
コースタイム

4/28 21:00 豊田発 23:40 竜宮の湯着

4/29 6:30 竜宮の湯発 7:10 戸倉 9:00 鳩待峠 9:40 発 11:10 オヤマ田代 12:30 至仏山山頂 15:00 山の鼻 至仏山荘着

4/30 7:07 山の鼻出発 9:30 休憩ポイント 10:40 山頂着 11:07 発 11:50 ワル沢出合 12:25 鳩待峠着

ルート(GPSによる実際に滑ったルート)



経過および感想

かねてより行きたかったGWの尾瀬・至仏山山スキーに行ってきました。

GWの高速渋滞を避けるため、28日の夜豊田を出発し、途中の吹割温泉・竜宮の湯で仮眠をしてから、29日朝に鳩待峠に到着。戸倉から峠までの道が雪崩警戒のため夜間通行止めとなっており、戸倉のゲート前には鳩待峠に向かう車の長蛇の列が来ていました。

峠までの道も渋滞が続き、駐車場には入れない車が路上駐車をしたため、私たちも峠から10分ほど下ったところに駐車して、歩いて峠に向かいました。(おかげで駐車料金1日2,500円が浮きましたが)

峠には山スキーヤーやボーダーがまるで夏山の人だかりの状態の出発の準備をしていました。出発の前に翌日山の鼻で合流する予定の樋口夫妻に夜間峠までの道は車が入れない旨の連絡を入れて、翌日の予定を確認してもらいました。(結局合流できないと判断して、二人は中止となりました)

峠からはほぼ夏道通りに緩やかな登りが続きます。途中傾斜が急になる1869mピークの手前で一回目の休憩を取り、二回目の休憩を稜線上にあるオヤマ田代で取りました。

ここで靴の調子が悪い荒木さんが修理に掛かっているのを待って早めの昼食を取り、12時前に出発、山頂には12:30に到着しました。

山頂は山スキーヤーや登山者、ボーダーなどでまるで夏山のにぎわいでした。山頂からの展望も素晴らしく、春にしては遠くまで澄んだ空のため、遠くの山々まで望むことが出来ました。

山頂での眺望を堪能したあと、いよいよムジナ沢の滑降に入りました。山頂からムジナ沢の源頭部に入るところの雪が切れていて、スキーを端随して岩場を歩かなければならず、手こずりましたが、ムジナ沢はどこを滑ってもOKの素晴らしい斜面が続いています。私たちは他の人たちが滑っていない北

側の斜面を滑ることとして、荒木さんを先頭

にノトラックの斜面に歓声を上げながら滑りました。

途中からはムジナ沢を離れ、夏道がある尾根筋に移って、麓の至仏山荘に向かい、午後3時には至仏山荘に到着しました。

山荘はとても綺麗(トイレも水洗・ウォシュレット付き)で、快適な山荘です。さすがに東京電力の関連会社が経営するだけに、電気は豊富に使っていました。

明けて30日は朝5:00に起床し、朝の尾瀬ヶ原の風景を写真に収めたり、スキーの準備をしたりしながら、朝食(6:00)を待ちました。前夜の夕食共々、メニューはなかなか良く(朝からおかずが豊富です)3月に泊まった蓮華温泉とは大違いです。



小至仏山は東側とトラバース



夏道通りに至仏山へ直登



至仏山山頂よりワル沢へ滑降



無事鳩待峠へ到着

朝食を済ませて午前 7:00 過ぎに出発。ほぼ夏道通りのコースをスキーアイゼンを使って直登しました。

途中、展望の良い岩場で二回目の休憩を取り(午前 9:30) 山頂には 11 時前に到着しました。まだ時間が早いこともあり、山頂は人も少なく静かでしたが、その内に鳩待峠から登ってくる人たちで、混み始めました。

山頂からワル沢への滑り出しは雪も豊富で簡単に滑ることが出来ましたが、雪質はムジナ沢に比べると重く、特に沢筋をはずしてノートラック

の尾根筋を滑ったためさらに重い雪となっていました。次回は沢筋を滑りたいと言うのが、メンバー皆の意見でした。

途中から木立が多くなると、地形も複雑になりルート選択が難しくなりますが、出来るだけ鳩待峠に近い方向へルートを取り、午前 11:50 にはワル沢の出会いに到着。

ここで再度シールを付けて鳩待峠まで登り返し、峠には 12:25 に到着しました。

二日間とも素晴らしい天気恵まれ、尾瀬の春スキーを思う存分堪能できました。

念願がかなった暑寒別岳登頂

北海道スキー協山スキー行事に参加して)

井上洋司

(はじめに)

2005 年 7 月佐藤一秀さんと私は天塩岳登頂の翌日に雨竜沼湿原から南暑寒岳を経て暑寒別岳に登るために南暑寒荘を出発した。5 時間ほどで南暑寒岳に到着したがここから暑寒別岳までの長い吊り尾根を往復するのに 5 時間余りさらに暑寒荘まで戻するのに 2 時間 40 分のコースを思うと暑寒別岳を眺めただけで引き返すことにした。そして暑寒別岳は来年の春に山スキーで挑戦することを誓って別れた。この春は幸いにも北海道スキー協の行事で暑寒別岳への山スキー行事をスキー協通信で知って佐藤さんを通じて参加することが出来た。

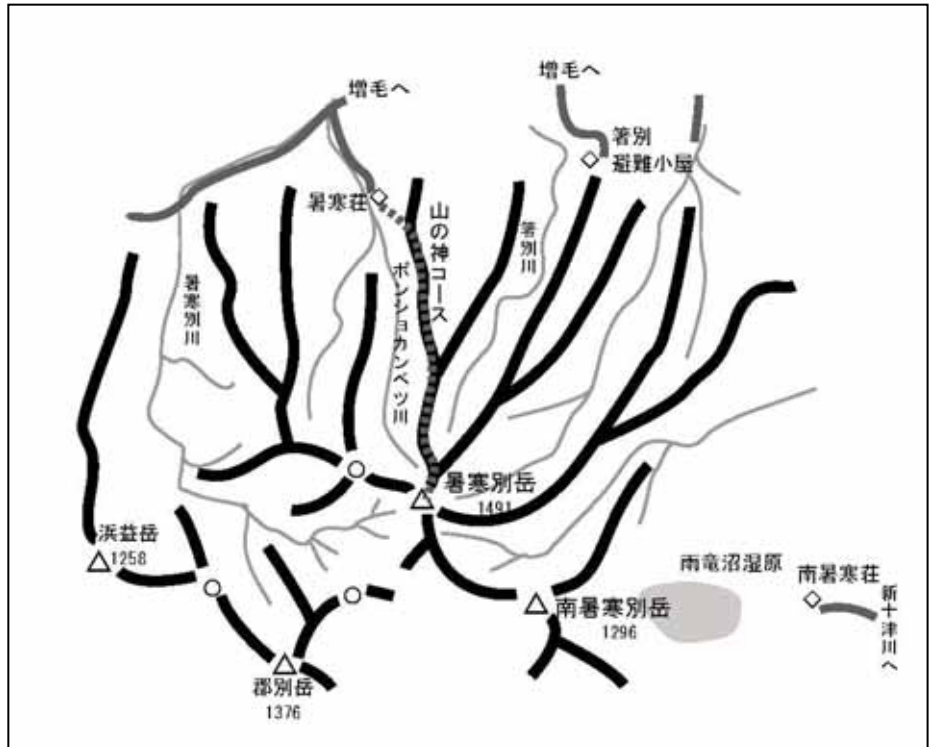
4 月 22 日(土)福岡からの便で千歳 10:15 着。札幌駅前佐藤さんと合流の後スキー協の待ち合わせ場所へ。ここから増毛の民宿へ移動してミーティングの後、佐藤さんと男山の酒蔵で試飲と見学をして今晚の酒を購入する。風が強く曇り山はガスって見えないので明日の天気が気がかりだ。お酒を飲みなが

らの和やかな夕食の後は一つの部屋でつまみお酒を持ち寄っての懇親会で大いに盛り上がる。翌日の行動が有るので 22 時頃には各部屋に戻る。

この後、我々の部屋は残り酒で 23 時過ぎまで酔っぱらいの議論で盛り上がる。

4/23(日) 5:00 起床。前日の天候からは信じられない程の快晴で気持ちはラッキー。

朝食の後車に分乗して出発する。市街地を抜けるところで大きなリコムの monument



ある交差点から暑寒荘への道にはいる。道の両脇の雪は次第に高さを増して暑寒荘の駐車場では 3m 近くにもなりすでに 3 台程の車がある。乾いた舗装の上で準備し営業中の暑寒荘の前で全員の記念

写真を撮る。7:00 出発、緩い傾斜の樹林帯を標識に導かれて進むと林道に出る。ここで早くも下りてくる単独の女性スキーヤーに出くわすが足の故障で途中から引き返したとのこと。林道から離れ斜面の傾斜が増してキッカーを繰り返しながら登るとすぐに稜線に出る。ここからは北に海が望まれ、東には菅別コースとの間の雄大な緩斜面が谷の向こうに横たわっている。標識番号が 80 位になると樹木もまばらになり隊列が三々五々と間延びしてく



る。樹林帯を抜けると標識が無くなり、番号は 99 番位で終わった様だ。ここまで登ると周囲の山々も少しずつ展望が利くようになるが圧巻は北の紺碧の海に浮かぶ純白の利尻岳の遠望である。そのきれいな三角形の姿はまるで海に浮かぶヨットの様に見飽きることはなかった。滝見台でここから引き返すメパ-と別れ屏風岩の急斜面に取り付く。雪面は凍結もなくアイゼンを付けずに登りきり山頂が見えると 15 分程で 12:00 到着する。山頂からは北海道の主な山がほとんど見渡せるすばらしい展望でした。昨年訪



れた雨竜沼湿原は真っ平らな純白のスケートリンクの様であった。30分ほど休憩の後いよいよスキーを着けて滑降開始。屏風岩の大斜面は日本海を見下ろし利尻岳を遠望しての豪快な滑走を楽しめた。下るに連れて雪は重たくなるが樹林帯に入る前に展望を楽しみ数人で一休み。紺碧の空と群青の海に純白の利尻の眺めは最高でした。この後は樹林帯を登りのトースに沿って降りて無事に暑寒荘へ 13:30 過ぎ到着する事が出来た。



東京スキー協(2006/5/3)

鳥海山山スキー教室



鳥海 - 八甲田 - 鳥海春山スキー

川崎 敏

今年も現役世代を交えて4月30日~5月09日、鳥海山、八甲田山へ春山スキーに行った。メンバーは昨年と同じく弟(小坂)と佐々木、今井両君。

4月30日(白山市 - 長岡 - 酒田 - 鳥海山被川口幕営)

JR長岡駅で弟の車にのせて貰い、村上で食糧を買い足して鳥海山被川登山口へ。由利高原に上がったあたりから雨が降りだし、雨のなか被川駐車場にテントを張る。夜半前線の通過にともない激しい風、テントが持ち上げられそうでおちおち酒も飲んでられない。

5月1日(鳥海七高山往復)

雨は夜半にあがって、曇っているが鳥海山の山頂まで見える。ザラメ雪にシールをきかせて登る。風はさほどでもないが冷たいので、EL1850m付近からヤッケ着る。2000m付近から両ももがつりですが、休みながら、だましだまし登り、4時間弱で七高山に達する。今日は休日でないせいかスキーヤー、登山者併せても10パーティー程か。雪の量は多く昨年以上か。降りはやや重いザラメながら快適。40分ほどで一気にテントに帰ってくる。

5月2日(鳥海山被川口 - 本庄 - 秋田 大館 - 酸ヶ湯温泉駐車場幕営)

週間予報では雨、停滞も覚悟した昨日だが、鳥海山往復出来たので、予定変更し、酸ヶ湯温泉へ向かう。駐車場のトイレに近いところの雪の上にテントを2つ張り、早速温泉につかりに行く。

5月3日(湯坂 - 毛無し岱 - 避難小屋 - 大岳 - 小岳 - 硫黄岳コース - テント)

快晴。明け方ぐっと冷え込み、テント内の水が凍る。鍋こわし坂を登り切ると、毛無し岱から岩木山がきれいに見える。竹竿沿いに登って、避難の小屋の少し上に出る。軽く腹ごしらえして大岳に登り、火口(お釜)を半周して東側の大斜面を豪快に降る。樹のまばらなところを選んで、小岳に登り、大雪庇を回り込んで、小岳の大南斜を仙人岱ヒュッテのレベルまで降る。あとはトラバ



箒場岱コースから赤倉岳大斜面



地獄湯沢を登る

ース気味に硫黄岳と仙人岱の鞍部(EL1295m)

へ。ここから地獄湯沢までの樹林帯の滑降も面白い。テントに着いたら、東京から車で来た佐々木、今井両君が待っていた。

5月4日(湯坂 - 毛無し岱 - 避難小屋 - 大岳 - 避難小屋 - 赤倉岳 - 箒場岱 - テント)

今日も快晴。車一台を箒場岱に廻しておいて、昨日と同じルートで大岳へ。山頂でお湯を沸



小岳山頂から高田大岳

かし食事。登ってきた北斜面を降り、大岳 - 井戸岳の鞍部から赤倉岳へ登る。やはり素晴らしい赤倉岳東大斜面を降り、箒場岱コースをたどり、車を拾ってテントへ。

5月5日(停滞、黄金崎不老不死温泉)
雨で停滞と決め込み、日本海に面した深浦町の不老不死温泉へ出かける。鱒ヶ沢あたりからの日本海はすごい風で、白波が立っている。名物の海岸にある露天風呂は風雨のため止めにして、内風呂で鉄分を含み茶色味を帯びた湯につかる。帰途、取れたての真イ

カを仕入れる。弘前城のお堀端を通がちょうど桜が満開でみごと。テントに帰り、イカ刺し、肉じゃがで桃川純米酒をあける。

5月6日(地獄湯沢 - 仙人岱ヒュッテ - 大岳 - 小岳 - 硫黄岳コース - テント)

曇のち晴れ。朝東京へ帰る佐々木、今井を見送って出発。風もなく暑い。久しぶりに仙人岱ヒュッテに入り、軽く食事。大岳南斜面にルートをとリシールを効かせて登る。お釜の縁から東斜面を降り、小岳に登ってのんびり休む。小岳の南斜面をかなり下まで降ってから、硫黄 - 仙人岱の鞍部へ登り返すが、気温が上がって溶け、水分の多くなった雪でシールののりが効かなくなり、スキーから剥がれ出したので最後はスキーを担ぐ。

5月7日(酸ヶ湯 - 大館 - 秋田 - 本庄 - 鳥海裾川口 - テント)

曇、朝のうち霧。天気は下り坂か、明日以降の回復を期待して再度鳥海山をすべることにし、霧の中テントをたたんで出発。貯中道の駅岩城でイイダコ、ホッキ貝、ホタテ貝の串焼きなど食材を仕入れ、裾川駐車場へ。鳥海山は雲に覆われ、雨も降り出すなかテントを張る。連休も終わってさすが車もない。

5月8日(鳥海七高山往復 - 酒田 - 村上 - 道の駅胎内)

朝、厚い霧のなか、明るくなりだしたのでテントをたたんで晴れるのを待つ。8:55分青空が霧の合間に見えだしたので出発。裾川ヒュッテから短い竹竿に赤いきれを付け、約20m間隔に立てられた、標識をたどって登る。視界はこの標識一本分がやっと見える程度。他に夜半および今朝駐車場に来たスキーヤーが数名のみ。EL1570mの避難小屋で湯を沸かしてインスタント麺とパンで食事している間に、霧は下がって、青空が広がり、下界はみごとな雲海。勇躍して山頂を目指す。鳥海山にしては風が無く暑いので、Tシャツだけで登る。山頂から周辺の山は雲海の下で、わずかに月山が見えるだけ。駐車場まで無人の大斜面を一気に降る。象潟 - 山形道 - 温海を經由して、村上で夕食を仕入れ、道の駅胎内にテントを張る。

5月9日(道の駅胎内 - 長岡 - 白山市)

長岡駅まで車で送ってもらって、北陸線鈍行列車を乗り継いで JR 加賀笠間から我が家へ。町内のボランティアが配ってくれるひとり暮らしの老人のための夕食宅配サービスに間に合う。雨や移動を間に入れて、休養を取りながらの10日間の山スキーの旅は無事、順調に終わった。

近況報告

二見鶴吉

5/3～5/6 八甲田山

山仲間と八甲田山酸ヶ湯温泉付近にてテント泊。

八甲田大岳山頂より快適に滑る。

笹木祐司

5/3～5/6 飛騨沢

初めて見る槍ヶ岳に感動し、飛騨沢のスケールの大きさに感動し、天気にも感動し、とにかくすばらしい山行でした。

近藤知子

5/4～5/6 鳥海山

スキー協の教室に参加。初日、晴れて風もなく雄大な鳥海山を存分に楽しみました。あとはお天気悪く、残念。

斉藤シゲ子

5/4～5/6 鳥海山

5/4 快晴、雄大な斜面を思いきり快適に滑走

5/5 は、巨木、花めぐり。へびも5・6匹穴から顔を出していました。

4/29 青梅、成木の里山、たけのこほり

5/1 里山、つつじめぐり

今年もつつじは満開。たけのこ狩り、山菜てんぷらをして家庭サービス。

4/22 平標山

ビンディングが緩くなっており、不安定でよく滑りました。また急斜面ののぼりが不安定になり歩幅を縮める事、しっかり踏み込む事が課題となりました。

吉原露子

4/15 シッケイ沢

強風のため仙の倉と平標の鞍部で引き返す。来年また行きたい。

5/3～5/6 双六岳、三俣蓮華岳

数年ぶりに双六小屋主催ツアーに参加。快適に登れた。

長部保雄

4/15～4/16 秋田八幡平

5/4～5/6 鳥海山

5/14～5/15 針の木雪渓

スキー協行事に参加

例会、運営委員会、リーダー会議報告

5月例会報告

2006年5月12日 午後7時30分から同9時 / 出席者20名

5月運営委員会報告

日時 2006年5月26日

場所 国分寺労政会館

委員 川上、荒木、長部、近藤、高島、中川、吉原

委員会概要、報告、議事内容：

入退会について

今月は、変動ありませんでした。

次回運営委員会 5月24日(午後7時30分から)

リーダー会議報告

報告ありません。

スキー協関係

東京都勤労者スキー協議会(東京スキー協)

<http://www.cpi-media.co.jp/skikyo/>

スキー協通信掲載箇所

<http://www.cpi-media.co.jp/skikyo/tsusin/tsusin.htm>

全国勤労者スキー協議会(全国スキー協)

<http://www.mmjp.or.jp/wsaj/>

全国勤労者スキー協議会(全国スキー協)山スキー部掲示

<http://okuda0948.sakura.ne.jp/skikyo/light.cgi>



スキー協関係予定表

6月9日、10日	全国スキー協総会
6月18日	第29回東京スキー協総会
6月23日	東京スキー協山スキー委員会
9月2日、3日	全国スキー協山スキー部会

雑記帳

夏、さてどうする…。体力をつけ、雪のある海外へ。イメージトレーニング。来シーズンまでのんびり考えて

夏山。「来シーズンには入ろうか、しかし、一度も行ったことなし」などというところには下見がてら山歩きを。

今シーズンは、山スキーがらみで遭難が25件ほど報道されていた。経年的に同一条件で統計をとっているわけではなし、多いか、少ないかは、人それぞれだろう。まとめを次号にと思っています。とりあえずタイト

ルだけを、全国スキー協山スキー部掲示板にのせました。そちらを

今月号は多くの報告が寄せられました。写真も多く、容量が1メガを越えました。来月にこの反動が？ 来月に…

しかし、最後に悩むのがここ。何か書かなければ…、発行を遅らせるわけにもいかず、アー。あと少し。

小生の板損傷事件にはみなさんに心配りいただきありがとうございます。同じメーカーの新モデル購入させていただきました。遅くなりましたが、ご報告まで。

来月は、総会。新しい計画を

三多摩山スキークラブ会報(2006.6 159)

発行 川上邦夫

編集 長部保雄

ホームページ編集 大槻 真人

<http://www.asahi-net.or.jp/~xi7m-ootk/backnumber.htm>

発行連絡先

180-0013

武蔵野市西久保 3-25-7-303

Tel/Fax 042-253-7289

2006.6.10 発行

荒川三山、赤石岳へ 山行のお誘い

7月の海の記念日の3連休です。

期日：7月14日(金)-17日(月)(夜行2泊3日)

目的：花と3000Mの縦走を楽しむ

山域：南アルプス 赤石岳、荒川三山

行動予定：

7/14 金 夜9時頃 某所で集合-東名-畑薙ダム(仮眠)

7/15 土 畑薙ダム-バス-榎島-赤石東尾根-赤石小屋

7/16 日 赤石小屋-赤石岳-荒川三山(前、中、東)-千枚岳-千枚小屋

7/17 月 千枚小屋-榎島-バス-畑薙ダム-帰京

宿泊：赤石小屋、千枚小屋共 一泊2食付(@¥7,500×2)

装 備：一般 山装備一式

定員：4名 それ以上は車提供者次第

参加締切：6月末日

問い合わせ、申し込み：近藤まで

tel:03-3316-3628

mail:noseta@jupitar.ocn.ne.jp

.....

「荒川三山、赤石岳」参加申込書

2006年 月 日

表記の件、下記により参加を申し込みます。

氏名		生年月日	19 年 月 日生 才
住所			連絡先()
その他			